

速読力・英作文力を高める英語コースのご案内

2023. 3. 6 (月)

速読力・英作文力を高める論理英語指導

数専ゼミの英語指導は、

英語の長文を速く読めるようになりたい

自分の考えを自在に英語で表現できるようになりたい

という人のための英語指導です。

暗記ではなく、”論理で”英語を使う技術を覚えることによって、それらが可能になります。

つまり、数専ゼミでは、英語の語法と構文のルールを使い、日本語を介さないで英文の意味を取ったり、自分の考えを英語で表現できる学力を育てます。

日本語を介さないで英文の意味をとってみる

具体例で考えてみましょう。

Miki likes playing tennis with her friends in the park.

このような英文の「意味」を取るときの思考プロセスを分析してみます。

英語は、日本語と違って、語法や構文の規則が厳格です。だから、この語法や構文ルールを使うことで、日本語を必要とせず意味がとれます。上の文でこの過程を分析してみます。

(1) 一般に、平叙文はS + Vの順で並びます。

ここから「だれが(何を)する」「だれが何だ」が書いてあるはずだ、と予想できます。

だから、Miki likes から「美紀は～が好きだ」という意味が取れます。

(2) likes の後には playing tennis が続きます。

この語の並びから、likes は他動詞だから目的語をとる。それがplaying tennis だという意味が取れます。

ここまでの、「美紀はテニスをすることが好きだ」という意味が取れます

ここでは、playing は動名詞で他動詞の目的語であるから、likes の目的語の資格があると理解できます。

一方、もし、like が次のように使われていたとすると、

Miki looks like her mother very much.

lookが動詞だからlikeは動詞にはなれない。likeの後にher mother(名詞句)があるから、

このlikeは前置詞である。

like が前置詞でlike her mother の句が副詞句として、動詞 looks を修飾しているから「~ように」という意味になるはずだという知識が瞬時頭をよぎります。

- (3) ここで、基本文型は完了し、英文の骨格は理解しました。でも、文は続きます。基本文型のあとに続くのは、時や場所や様態を表す副詞(句、節)だ、というルールが次の思考を喚起します。それに従って、次の語群を見ます。するとwith her friends というフレーズがあります。「テニスをするのだから、だれかとするに決まっている。」この状況を予想することによって、withが、手段を表すのではなく、「~といっしょに」という意味を表す前置詞である理解できます。前置詞+名詞(目的格)という一般ルールが頭をよぎります。
- (4) さらに語群が続いています。この後に続く副詞は「場所」か「時」の意味の語群がくるはずだ、と予想して見ます。in the park が見えます。ここで前置詞はinです。前置詞in は無数の意味があります。playing tennisやthe parkとのつながりで、ここでは場所を示す前置詞として使われているということがわかります。「公園で」と了解します。

このようにして、語法と構文のルールを使うことで、全体の意味が取れます。英文は、語と語、節と節、文と文のつながりで意味を形作っていますから、これらのつながりのルールを見抜くことで日本語を介さずにその文の意味が取れるのです。

このような思考プロセスは、瞬時におこなわれます。当然、日本語が介入する時間などありません。だから、こうした能力が身につくと、むしろ、日本語がじゃまになります。日本語を介さないのが、非常に速く英文の意味を取っていくことができるようになります。

英語の自己表現に使う

自分の考えを英文で表現するときにも、語法と構文ルールを使うと、日本語を介さずに瞬時にできるようになります。

次に、語法と構文ルールを使って英作文をする思考プロセスを分析してみましょう。語法と構文ルールを使う速読、英作文の学力を学ぶ数専ゼミのオリジナル教材も紹介します。

語法と構文を使った英語の自己表現

「美紀は公園で友達とテニスをするのが好きです。」
という意味の英文を作るプロセスを考えてみます。

「好きです」はlikeで、他動詞だから、文全体の構造はSVOです。英文の構造は動詞が決めます。

ここで、Miki likes ～ と主語と動詞が確定します。

likes の後に来るのは目的語で名詞。「テニスをするのが」のフレーズを名詞化します。動詞の意味をもった名詞ですから動名詞です。plaing tennis が目的語になります。ここで主文は完成します。

残りは修飾部分で、様態－場所－時の副詞句がこの順で並びます。副詞句ですから、前置詞＋名詞という構造を作ります。

「友達と（いっしょに）」はwith her friends

「公園で」は、この後にin the park と続きます。

このように考えながら、

Miki likes plaing tennis with her friends in the park.

という英文が作られていきます。

構文と語法のルールを組合せながら「論理的に」英文を組み立てることができます。

まとめます

ここで使った構文は第3文型といわれるS＋V＋Oで、この文型のVは他動詞です。

語法は、目的語として働く動名詞を使っています。中2の教材です。

前置詞はwithとinを使っています。前置詞には絶対的な意味などなく、他の語との関係で意味をもちます。だから、文脈でおぼえるしか手はありません。

withやinの意味を辞書的にいくつか覚えても使えません。

語法と構文は、次のように教えます

理論は、あくまで理論です。

理屈はわかった。

では、生徒にそういう能力をどのようにして育てるのか、という指導法が肝要なことです。

語法－構文のルールを使って読解、英作する力を育てる教材を紹介します。

中2、動名詞の学習プログラムです。A4判プリント12枚で構成されています。

→実際に授業で使うプリント教材 「●中学英文法 動名詞」

●中学英文法 動名詞★ 学習計画書 ★

([ブラウザのバック矢印](#)でこの文書に戻ることができます。)

■演習問題は、数専ゼミ・山形・東原教室で個人指導を受けることができます■

(1／12) 最初に動名詞に関する語法の総括的な解説があります。

(2／12) 動名詞 (その1 平叙文)

(3／12) 動名詞 (その2 疑問文・否定文)

この3枚目のプリントの内容を詳しく説明します。(他のプリントも全く同じ構成です)

問題0 構文と語法のサンプルの紹介です。

- 問題 1 構文と語法を使って英文の意味を取ります。
英文の意味を正しくとったかどうかは、日本語で書いていただくしかチェックする方法はないので、英文和訳のような形になっています。
しかし思考プロセスは構文と語法のルールを適用して英文の意味を取ります。
- 問題 2 いわゆる整序英作文と言われる問題です。
語句が与えられ、それを構文と語法ルールに従って並べ変え、意味のある英文を構成します。
- 問題 3 構文と語法のルールが与えられた条件下で英作文します。
あくまで動名詞の語法を指定された構文で使い回す訓練です。
- 問題 4 ふつうの和文英訳です。
構文、語法とも自分で選択して意味のある英文を構成します。
文中の正しい位置で、適した形にして動名詞を使う練習です。
- 問題 5 条件英作文です。自由英作文ともいわれます。
テーマと使う構文だけが与えられ、内容は自由です。
このような問題では、与えられた構文を含めるだけで単語や修飾語は凝らなくてよく簡単に表現します。点を取ることが目的ですから、綺麗な、内容の深い英文など作る必要はありません。

このあと、次のような構文の中で動名詞を使い回す練習をします。

- (4 / 1 2) 助動詞を含む文
- (5 / 1 2) 疑問詞を含む疑問文
- (6 / 1 2) 前置詞の目的語としての動名詞
- (7 / 1 2) 主語の働きをする動名詞
- (8 / 1 2) 補語の働きをする動名詞
- (9 / 1 2) ~ (1 2 / 1 2) 不定詞と動名詞の書きかえ

以上のように、動名詞の総合的な深く、広い学習をします。

このあとで、できる人のみ、市販問題集のような問題を出題形式別に学習します。
定期テスト対策の実戦問題演習です。

何を、どんな順序で学習するのか？

なお、どの文法項目を、どんな順序で学習するのかは、個々人と相談しながら進めます。
ていねいに復習しておきたい項目
もっと広くかつ深く学習したい項目（中学生でも高校英語の学習ができます）
など、など、学習したいことが学習ができます。



通常は、学校の授業で学習している文法項目を、学校の授業と並行して学習します。
定期テストで高い点数を取るための対策になります。

なお、定期テスト2週間前からは、テスト対策指導があります。
ここでは、テスト範囲の模擬テストを繰り返し演習し、90点以上の得点を目標として特訓指導を行います。（家で繰り返し練習したい人には、模擬テストを無料で何枚でもあげます。）